

各位

日本農産工業株式会社

2012年7～9月期の畜産配合飼料価格について

畜産配合飼料価格改定額

弊社は、2012年7～9月期の畜産配合飼料価格につきまして以下の飼料原料情勢等に基づき、2012年4～6月期に比較して全国全畜種総平均トン当たり約1,080円値上げすることを決定致しました。なお、改定額は地域別・畜種用途別・銘柄別に異なります。

飼料原料・外国為替情勢について

1. 主原料（飼料穀物）

シカゴ定期とうもろこし相場は、米国の2011/2012年度産とうもろこしが端境期に向かい需給が逼迫するとの見方がある一方で、2012/2013年度産は作付面積拡大による豊作予測に基づき大幅に需給が緩和する可能性があります。直近1ヶ月のとうもろこし相場は、この二つを主な取引材料として値動きの激しい展開となっており、おおむね550～650セント/ブッシェルの範囲で推移しています。

2012/2013年度産のとうもろこしは例年より生育時期が早く、現地では間もなく受粉期を迎えます。最近の天候が高温・少雨傾向となっており、この傾向が続いた場合には生育に悪影響を与えることになるため相場上昇要因として懸念されます。

2. 副原料（植物蛋白原料）

南米では天候が高温・乾燥で推移したことにより大豆が大幅な減産となることを受けてシカゴ定期大豆粕相場は上昇しています。中国も米国産大豆の輸入を増加させており、米国産大豆の需給逼迫を後押しする要因となっています。シカゴ定期大豆粕相場は4月初旬の390ドル/ショートトン水準に対して、直近では430ドル/ショートトン水準と約40ドル上昇しており、7～9月期間渡しの大豆粕価格は4～6月に対して比較10%以上の大幅値上がりとなる見込みです。

3. 海上運賃

米国ガルフ/日本間パナマックス級本船の運賃は、50ドル台前半水準での取引となっています。太平洋航路の備船料金は堅調に推移していることから運賃相場は安定した価格で推移しています。

4. 外国為替

直近のドル/円相場はおおむね1ドル=79円台半ばで取引されています。欧州金融不安の影響により、安全資産と位置付けられるドル・円は共に買われやすくなっていますが、ドル/円については相場に大きな影響を与える要素がなく比較的安定して推移しています。